



2020年5月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年1月14日

上場会社名 Sansan株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4443 URL http://jp.corp-sansan.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長/CEO (氏名) 寺田 親弘
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員/CF0 (氏名) 橋本 宗之 TEL 03 (6758) 0033
 四半期報告書提出予定日 2020年1月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2020年5月期第2四半期の連結業績（2019年6月1日～2019年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年5月期第2四半期	6,294	—	109	—	17	—	△91	—
2019年5月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2020年5月期第2四半期 △88百万円 (—%) 2019年5月期第2四半期 -百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年5月期第2四半期	△2.97	—
2019年5月期第2四半期	—	—

(注) 1. 当社は、2019年5月期第2四半期については、四半期連結財務諸表を作成していないため、2019年5月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2020年5月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載していません。
 2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
2020年5月期第2四半期	21,208	—	10,127	—	47.7
2019年5月期	9,079	—	3,372	—	37.0

(参考) 自己資本 2020年5月期第2四半期 10,116百万円 2019年5月期 3,362百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年5月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年5月期	—	0.00	—	—	—
2020年5月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年5月期の連結業績予想（2019年6月1日～2020年5月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,816	35.4	724	—	670	—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無
 2. 親会社株主に帰属する当期純利益の黒字化についても見込んでいますが、現時点では精緻化が困難であることから、具体的な予想数値の開示は行っていません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年5月期2Q	31,058,853株	2019年5月期	29,432,353株
② 期末自己株式数	2020年5月期2Q	－株	2019年5月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年5月期2Q	30,726,509株	2019年5月期2Q	－株

（注）当社は、2019年5月期第2四半期については、四半期連結財務諸表を作成していないため、2019年5月期第2四半期の期中平均株式数を記載していません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「出会いからイノベーションを生み出す」というミッションを掲げ、「クラウドソフトウェア」に「テクノロジーと人力による名刺データ化の仕組み」を組み合わせた新しい手法を軸に、名刺管理をはじめとした企業やビジネスパーソンが抱えるさまざまな課題の解決につながるサービスを展開しています。具体的には、名刺をデータ化し、人と人のつながりを情報として可視化・共有できる、法人向けクラウド名刺管理サービス「Sansan」を展開するSansan事業と、ソーシャル・ネットワークキング・サービスの仕組みを取り入れ、名刺をビジネスのつながりに変える名刺アプリ「Eight」を展開するEight事業を運営しています。また、両事業共通の基盤として名刺のデータ化等はデータ統括部門であるDSOC(Data Strategy & Operation Center)が担っており、新技術の開発とデータ入力オペレーションの改善を追求し続けています。

当社グループの提供する「Sansan」と「Eight」は、数多くの企業やビジネスパーソンが利用するサービスとなっているほか、名刺管理という基本的なビジネスニーズに根ざしていること、また、蓄積されていくデータや情報がサービスの土台となっていることから、他のサービスやデータベースとの連携可能性が高く、ビジネスにおけるプラットフォームになり得る要件を兼ね備えているものと捉えています。したがって、ビジネス・プラットフォームとしての価値を高めていくことで、さまざまなビジネス機会にアクセスしやすいという特徴を有していると考えています。

当第2四半期連結累計期間においては、継続的な売上高の成長の実現に向け、人材採用をはじめとした営業体制の強化等に取り組みました。

この結果、Sansan事業及びEight事業ともに順調に推移し、当第2四半期連結累計期間における売上高は6,294,801千円、売上総利益は5,382,518千円、売上総利益率は85.5%となりました。また、営業損益以下の段階損益においては、営業利益109,840千円、経常利益17,203千円、親会社株主に帰属する四半期純損失91,110千円となりました。

2019年6月19日に東京証券取引所マザーズへ新規上場したことにより、公募による募集株式発行とオーバーアロットメントによる株式売出しに伴う第三者割当増資を行いました。これらによる手取額6,843,498千円については運転資金としての広告宣伝費、販売促進費等のマーケティング投資、人件費、採用費に充当する予定です。

また、「Sansan」のビジネス・プラットフォームとしての拡張性や価値を高めていくことを目的に、2019年11月1日にウイングアーク1st株式会社(以下、「ウイングアーク1st社」)と資本業務提携契約を締結し、当社はウイングアーク1st社の発行済株式総数の11.44%を4,998百万円にて取得しました。この株式の取得資金は、全額を金融機関からの借入金5,000百万円にて充当しました。なお、この契約によりウイングアーク1st社の「MotionBoard」(注1)を「Sansan」上で利用可能なアプリケーションとして展開し、名刺データや顧客情報の分析機能の拡充や、営業活動を通じたクロスセルを行う予定です。

(注) 1. 企業内外に存在するさまざまな情報・データを統合して可視化し、価値ある情報に変えることで、企業にイノベーションをもたらすことをコンセプトとした情報活用ダッシュボードサービスで、多彩な表現力やリアルタイム処理、高い操作性やメンテナンス性が特徴となっています。

セグメント別の業績は以下の通りです。

①Sansan事業

Sansan事業では、「名刺管理から、働き方を変える」をコンセプトに、クラウド型の名刺管理サービス「Sansan」を法人向けに展開しています。「Sansan」の活用を通じて、例えば、「名刺交換情報が社内でも共有されていない」「名刺情報が持つ価値に気付いていない」といった、企業が抱える課題を解決し、企業に眠る名刺を事業活動に使える資産に変えることで、ビジネスの「出会い」の価値を最大化できると考えています。ユーザー企業は名刺をスキャンするだけで、名刺情報は当社グループ及び外部の情報処理パートナーの入力オペレーター等により正確にデータ化され、クラウド型アプリケーションを通じて「AI名刺管理」を利用することができます。本機能では、各社員単位での名刺管理だけでなく、組織内での名刺情報の共有も可能となります。また、最新の人物情報が通知される人事異動ニュースの配信や一括メール配信機能等の幅広い顧客管理機能を備えています。

さらに、これらの基本的機能に加えて、同僚とスムーズな情報共有を可能にする社内電話帳や同僚の強みや知見を可視化する機能を備えた「同僚コラボレーション」、社内のデータベース連携や複雑な顧客データの高度な名寄せが可能な「Sansan Data Hub」といった機能も提供しています。クラウド上の名刺データにはパソコンやスマートフォンから素早くアクセスが可能であり、検索機能や電話・メッセージ機能等の活用を通じて、ビジネスパーソンに生産性向上、業務改善、コストの削減といった効果を提供しています。また、組織内で名刺情報の共有や企業

内の顧客データの名寄せ等が行えることで、ユーザー企業のビジネス機会の創出につながる高度なマーケティング活動、顧客管理等が可能になると考えています。

ビジネスモデルとしては、ユーザー企業の全社員によるサービス利用(全社利用)を前提としたライセンスへの月額課金を推進しています。ユーザー企業においてデータ化される名刺の枚数を基に算出されるライセンス費用に、オプション機能の利用料やスキャナレンタル料等が加算されたものが月額利用料となります。また、サービス導入時には、紙で保管している大量の名刺のデータ化や導入支援等の付加サービスを有料で提供しています。

当第2四半期連結累計期間においては、法人向けクラウド名刺管理サービス「Sansan」における契約件数及び契約当たり月次売上高のさらなる拡大に向け、営業人員の採用をはじめとした営業体制の強化等に継続的に取り組みました。この結果、金融機関・行政機関等のサービス利用が進んだほか、中小企業の新規顧客獲得も順調に進み、当第2四半期連結会計期間末における「Sansan」の契約件数は前年同期末比11.5%増の6,263件となりました。また、強固な顧客基盤の実現に向け、既存顧客の利用拡大に対する継続的な取り組みを行った結果、直近12か月平均の月次解約率(注2)は前年同期比0.25ポイント減の0.54%に改善しました。

また、「Sansan」のプラットフォーム展開を推進することを目的として、名刺をスキャンするだけで反社チェックが可能となるオプション機能を反社データ・情報を保有するリフィニティブ・ジャパン株式会社と共同開発することを決定しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は5,789,973千円、セグメント利益は2,112,931千円となりました。

(注) 2. 「Sansan」の既存契約の月額課金額に占める、解約に伴い減少した月額課金額の割合

②Eight事業

Eight事業では、「名刺でつながる、ビジネスのためのSNS」をコンセプトに、単なる名刺管理だけではなく、ソーシャル・ネットワークキング・サービスの仕組みを取り入れた新しいビジネスネットワークサービスとして、名刺アプリ「Eight」を運営しています。

「Eight」の活用により、ビジネスパーソンが抱える「ビジネスの出会いを活かしきれていない」「名刺情報に容易にアクセスできていない」といった課題を解決できると考えています。「Eight」では、「Sansan」と同様に、名刺をスキャンするだけで、自分や交換相手の名刺情報が正確にデータ化されます。まず利用ユーザーは自分の名刺を登録することで、ビジネスライフを通じて活用できる自身のページが作成され、プロフィール管理が可能となります。次に、交換相手の名刺を登録することで名刺管理機能が活用でき、クラウド上にデータ化された全ての名刺情報には、スマートフォンやパソコンから、いつでもどこでもアクセスが可能となります。また、ネットワークキング・サービスを通じてつながった相手の情報に変更があった場合には、登録した名刺情報が自動で最新の状態に更新され、通知が届くようになります。加えて、ビジネスチャットが送り合えるメッセージ機能も活用でき、ユーザー自身が持つビジネスネットワークをよりスムーズに活用することが可能となります。さらに、興味のある企業の情報の収集や転職活動等にも活用できます。

ビジネスモデルとしては、プロフィール管理や名刺管理機能が無料で使用できるアプリをベースとし、一部利用機能を拡充したBtoC サービス「Eightプレミアム」と「Eight」における名刺共有を企業内で可能にするサービス「Eight 企業向けプレミアム」や「Eight」のユーザーに対して広告配信ができるサービス「Eight Ads」、転職潜在層のユーザーにアプローチ可能な採用関連サービス「Eight Career Design」等のBtoB サービスを提供しています。

当第2四半期連結累計期間においては、個人向け名刺アプリ「Eight」におけるBtoB サービス「Eight 企業向けプレミアム」等のマネタイズ強化に取り組みました。この結果、当第2四半期連結会計期間末における「Eight 企業向けプレミアム」の契約件数は前年同期末比149.8%増の1,164件、「Eight」ユーザー数(注3)は前年同期末比29万人増の258万人と順調に伸長しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は504,828千円、うちBtoC サービス売上高は143,207千円、BtoB サービス売上高は361,621千円となりました。セグメント損益については、現在は将来の収益化に向けた先行的な投資を行っているフェーズであることから、セグメント損失466,528千円を計上しました。

(注) 3. アプリをダウンロード後、自身の名刺をプロフィールに登録した認証ユーザー数

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び資本の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は21,208,951千円となり、前連結会計年度末に比べて12,129,835千円増加しました。これは主に、新株発行等による現金及び預金の増加6,780,657千円によるもの、並びにウイングアーク1st社への出資を行ったこと等による投資有価証券の増加5,019,029千円によるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は11,081,314千円となり、前連結会計年度末に比べ5,375,163千円増加しました。これは主に、ウイングアーク1st社への出資資金の調達のため借入をしたこと等による長期借入金の増加3,889,292千円、および1年内返済予定の長期借入金の増加1,045,540千円、並びに顧客企業から契約期間分の料金を一括で受領すること等による前受金の増加114,544千円によるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産額は10,127,637千円となり、前連結会計年度末に比べ6,754,671千円増加しました。これは、主に当社普通株式の東京証券取引所マザーズへの上場に伴う新株発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ3,421,749千円ずつ増加したこと、並びに親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が91,110千円減少したことによるものです。また、2019年7月30日開催の取締役会決議に基づき、累積損失を早期に解消し、今後の柔軟かつ機動的な資本政策を実現するため、資本剰余金947,106千円を減少し、利益剰余金に振り替えています。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ6,778,757千円増加し、12,247,252千円となりました。当該増加には資金にかかる為替変動による影響235千円が含まれています。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は728,706千円となりました。主な増加要因は、非現金支出となる減価償却費の計上291,422千円、未払金の増加214,381千円、および前受金の増加114,534千円であり、主な減少要因は前払費用の増加125,713千円です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は5,664,749千円となりました。これは主に、ウイングアーク1st社株式の取得等により投資有価証券の取得による支出5,045,734千円が生じたことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は11,714,565千円となりました。これは主に、主に当社普通株式の東京証券取引所マザーズへの上場に伴う株式の発行による収入6,815,396千円、およびウイングアーク1st社株式の取得資金のための長期借入れによる収入4,980,545千円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年5月期の連結業績予想については、2019年7月12日に公表した内容から変更はありません。なお、当第2四半期においてテレビCMを中心とした積極的な広告宣伝活動を行ったことから、営業利益の進捗率は低くなりましたが、期初計画通りの内容です。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,627,035	12,407,692
売掛金	318,354	307,149
前払費用	322,660	450,551
未収消費税等	266	388
その他	32,996	14,249
貸倒引当金	△2,704	△2,939
流動資産合計	6,298,608	13,177,092
固定資産		
有形固定資産	406,924	464,290
無形固定資産		
ソフトウェア	834,737	870,039
その他	390	325
無形固定資産合計	835,127	870,364
投資その他の資産		
投資有価証券	1,093,800	6,112,829
敷金	439,537	579,822
その他	5,118	4,551
投資その他の資産合計	1,538,455	6,697,203
固定資産合計	2,780,508	8,031,859
資産合計	9,079,116	21,208,951

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	96,169	86,166
短期借入金	18,000	21,165
1年内返済予定の長期借入金	133,134	1,178,674
未払金	770,424	931,939
未払法人税等	41,283	120,621
未払消費税等	184,745	156,598
前受金	3,923,177	4,037,721
賞与引当金	199,010	257,751
事業所閉鎖損失引当金	6,960	—
その他	55,868	118,635
流動負債合計	5,428,772	6,909,274
固定負債		
長期借入金	233,714	4,123,006
その他	43,664	49,033
固定負債合計	277,378	4,172,039
負債合計	5,706,151	11,081,314
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,812,501	6,234,250
資本剰余金	1,500,000	3,974,643
利益剰余金	△942,592	△86,596
株主資本合計	3,369,909	10,122,298
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△7,607	△5,324
その他の包括利益累計額合計	△7,607	△5,324
新株予約権	10,663	10,663
純資産合計	3,372,965	10,127,637
負債純資産合計	9,079,116	21,208,951

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年 6月 1日 至 2019年11月30日)
売上高	6,294,801
売上原価	912,283
売上総利益	5,382,518
販売費及び一般管理費	5,272,678
営業利益	109,840
営業外収益	
受取利息及び配当金	1,065
解約違約金収入	1,964
その他	567
営業外収益合計	3,597
営業外費用	
支払利息	2,659
株式交付費	28,102
株式上場費用	15,175
支払手数料	19,456
為替差損	625
持分法による投資損失	26,705
その他	3,510
営業外費用合計	96,234
経常利益	17,203
特別損失	
固定資産除却損	6,421
減損損失	37,854
特別損失合計	44,276
税金等調整前四半期純損失(△)	△27,073
法人税、住民税及び事業税	64,036
四半期純損失(△)	△91,110
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△91,110

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年 6月 1日 至 2019年11月30日)
四半期純損失(△)	△91,110
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	2,283
その他の包括利益合計	2,283
四半期包括利益	△88,826
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△88,826

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年 6月 1日 至 2019年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△27,073
減価償却費	291,422
減損損失	37,854
固定資産除却損	6,421
株式交付費	28,102
事業所閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△6,960
貸倒引当金の増減額(△は減少)	234
賞与引当金の増減額(△は減少)	58,722
受取利息及び受取配当金	△1,065
支払利息	2,659
支払手数料	19,456
持分法による投資損益(△は益)	26,705
売上債権の増減額(△は増加)	11,322
前払費用の増減額(△は増加)	△125,713
未収消費税等の増減額(△は増加)	△116
その他の資産の増減額(△は増加)	18,614
仕入債務の増減額(△は減少)	△10,002
未払金の増減額(△は減少)	214,381
前受金の増減額(△は減少)	114,534
未払消費税等の増減額(△は減少)	△26,528
その他の負債の増減額(△は減少)	83,281
その他	23,452
小計	739,704
利息及び配当金の受取額	1,205
利息の支払額	△4,245
法人税等の支払額	△7,957
営業活動によるキャッシュ・フロー	728,706
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△190,127
無形固定資産の取得による支出	△265,221
投資有価証券の取得による支出	△5,045,734
敷金の差入による支出	△168,316
敷金の回収による収入	4,650
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,664,749
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少)	3,165
長期借入れによる収入	4,980,545
長期借入金の返済による支出	△65,168
株式の発行による収入	6,815,396
その他	△19,373
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,714,565
現金及び現金同等物に係る換算差額	235
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,778,757
現金及び現金同等物の期首残高	5,468,495
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,247,252

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社普通株式の東京証券取引所マザーズへの上場に伴う新株発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ3,421,749千円ずつ増加し、一方で、累積損失解消のため資本剰余金947,106千円を減少し利益剰余金に振り替えた結果、資本金が6,234,250千円、資本剰余金が3,974,643千円、利益剰余金が△86,596千円となっています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 2019年6月1日 至 2019年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Sansan事業	Eight事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,789,973	504,828	6,294,801	—	6,294,801
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—
計	5,789,973	504,828	6,294,801	—	6,294,801
セグメント利益または損失(△)	2,112,931	△466,528	1,646,403	△1,536,562	109,840

(注) 1. セグメント利益または損失(△)の調整額△1,536,562千円は、報告セグメントに配分していない全社費用の金額であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2. セグメント利益または損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

Sansan事業、Eight事業及び報告セグメントに帰属しない全社費用として、ソフトウェアについて帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失に計上しています。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において、Sansan事業6,387千円、Eight事業9,648千円、報告セグメントに帰属しない全社費用21,818千円です。